

特別支援学級の設置について

1. 経過

特別支援学級配置計画に基づき、学校の建替えに当たっては、特別支援学級を設置することとしています。保谷第一小学校の建替えに伴い知的障害特別支援学級(A学級)、自閉症・情緒障害特別支援学級(B学級)のいずれかの設置、または併設について検討を進め必要があります。

【特別支援学級配置計画(令和7年1月策定)】『抜粋』

適正規模を保つために、新たな設置にあたっては、知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級のいずれかの単独設置を基本とします。ただし、学校建替えに伴い十分なスペースが確保できる場合には、併設についても検討することとします。なお、将来的には特別支援学級の全校設置を目指とします。

2. 課題等

(1)特別支援学級利用者数の推計(東京都)

東京都における、今後の特別支援学級利用者数の推計では、A学級、B学級ともに令和10~12年度をピークに減少することが見込まれています。

(東京都特別支援教育推進計画(第二期)第三次実施計画)

(2)地域の特徴

A学級については、令和8年度から住吉小学校などに新設される予定ですが、住吉小学校周辺エリアでは、児童数の増加が見込まれるため、教室不足が懸念されます。

B学級については、東小学校に通学する対象児童の増加により、B学級の教室数が不足する可能性があります。

また、市北側エリアには、特別支援学級が設置されている小学校はなく、通学等の負担が生じています。

3. 教員ヒアリング

【対象】東小学校 校長、学級主任(A・B学級)

【現状】 A学級(5学級)

B学級(4学級) ※能力の違いでも分けている

【ヒアリング事項】A学級及びB学級の併設について

【主な意見】

- ・保護者がA・B学級双方の見学ができ、入級に向けた比較が容易になる
- ・特性の変化による転学が不要になる
- ・給食時など、同学年の児童が近くにいることで安心する
- ・合同学習を行っているが、指導内容が異なるため本来は不要
- ・教育課程を組むことや個別指導計画の作成に伴い業務増が想定される

4. 今後の方向性

東京都の推計では、令和12年度以降、特別支援学級に通学する児童数が減少傾向になることが見込まれます。一方で、地域的な側面からは、特別支援学級の設置と児童数増加に伴う教室数確保の両立や、B学級の教室不足への対応が必要になります。

仮にA・B学級を併設しない場合、市北側エリアにおいて当面の間、A又はB学級が設置されない状況が続くことになり、地域的な課題が発生する可能性があります。

また、教員等へのヒアリングにおいては、通学等の利便性向上により、児童や保護者の負担が軽減される一方で、学校管理運営の側面からは、負担の増加が懸念されます。

以上の状況を総合的に考慮した結果、保谷第一小学校においては、A学級及びB学級を併設する方向で検討を進めることとします。

併せて、保谷第一小学校が特別支援教室の拠点校であることから、特別支援学級及び教室にかかる管理運営の平準化を図ることも検討します。

また、今後の児童数の推移や学校の施設規模等を踏まえ、設計段階等において保谷第一小学校内に諸室の床面積等が十分に確保できない場合や、栄小学校に特別支援学級のスペースが確保できる場合などにおいては、代替案についても検討を行い、必要に応じて柔軟に対応します。